

納言季種卿ニ論語ノ訓説ヲ(ウ)ケ  
奉和哥ノ道マテモカタリ出タマヒ道  
遥(院内府ノ)御点ナト申ウケ侍シ  
古ノ事マテヒ(トリコト)シテカキ  
ツケ侍ルナラン

これによると顕誓は、かつて遣遥院三  
条西実隆の添削も受けたことがあるら  
しく、直接中央歌壇の歌人ともつなが  
っていたことが知られる。本百首には、弥  
陀による救済を信じて疑うことのない  
顕誓の、弥陀に対する信敬慕慕の思  
いを直接詠みあげたものが多い。龍  
谷大学本(圖書番号〇二一・二二七)  
の仮綴本は、欠損部分、及び判読不  
明箇所が多いが、天正十四年(一五  
八六)の現存最古の写本であり、貴重  
である。

次に「九代抄」は、室町期の連歌師  
牡丹肖柏の撰集した勅撰集の秀歌撰  
である。文亀三年(一五〇三)一〇  
月の成立で、後撰集から統後撰集に  
至る九つの勅撰集から秀歌を選び、  
春・夏・秋・冬・恋・雜の六つの部  
立に再編成したものである。これには  
歌本文だけのものと二種がある。龍  
谷大学本(圖書番号〇二一・三四一、  
一)は歌本文だけの零本で、室町後  
期に書写された写本である。本文は、  
春部と、夏部の前半を欠いていて、  
夏部の途中の次の歌から始まっている。  
花なれやと山の春の朝ほらけ風にか  
ほるみねの白雲

式子内親王

たかさこの尾上の桜たつめれば宮こ  
のにしきいくへかすみぬ  
本書の末尾には次の肖柏の元奥書が  
見られる。

右一冊從後撰集至統後撰集遮眼  
銘肝之作書者一千五百首九代抄也  
送春鐘辰秋瀨而閑窓勅之專為老  
懶之難堪博覽又思童蒙之不及深  
求耳

文亀第三層孟冬上旬弄花軒肖柏  
「九代抄」の諸本は片山亨氏が奥書  
の署名や歌順の異同等を基準にして三  
類に分類されているが(片山亨「九代  
抄」について)〔甲南国文〕第二八  
号・一九八一年)、同「九代集抄」解  
説(龍谷大学図書本は東洋文庫岩崎  
本、宮内庁書陵部本等と同じく第三  
類のA系統に分類されている。龍谷  
大学図書本は春部と、夏部の一部と  
を欠く零本ではあるが、その書写時  
期が成立時期に比較的近いものであ  
り、室町期書写の数少ない伝本であ  
るが、その他に、歌に付されている注  
記から第三類本の原初形態を知り得  
る写本でもある点で貴重な伝本と考え  
られる。

最後の「自讃歌注」(圖書番号〇二  
・三五七)は、「百人一首」と合綴され  
た袋綴の一冊で、表表紙見返しに長  
方形の「写字白之藏書」の朱の藏書  
印が捺されている。裏表紙見返しに  
は次の奥書がある。  
此一本雖為秘本依所望書写畢

于時明応五年二月八日

自讃歌は、後鳥羽院以下の新古今  
当代歌人一七名各一首の、計一七〇  
首の秀歌撰である。撰者は後鳥羽  
院とされて伝わっているが、未詳  
である。これに室町時代以降多くの  
注釈書が著されるが、その中、当  
該本は冷泉持為の門弟であった木  
戸孝範(生没年未詳、文亀二年(一  
五〇二)以後没)の著した注釈書  
である。木戸孝範の「自讃歌注」は、  
その伝本が十本程度現存している、  
広本系・略本系

## ◇ 研究概要報告 ◇

平成二十四(二〇二二)年度本研究所  
の研究計画は、指定研究二件(継続  
一、新規一)、共同研究四件(継続  
一、新規二)、常設研究三件(継続  
一、新規二)、特別指定研究三件(継  
続三)、そして個人研究二件(新規  
二)が設置され、合計十四件の研究  
プロジェクトが構成された。次に示  
すような具体的な計画のもと、総研  
究員数二二二名の協力によって推進  
される。

研究成果として、「佛教文化研究所紀  
要」第五十一集に共同研究ほかの六  
編ならびに恒例の本研究所講演会  
の講演記録を収めた。仏教文化研  
究叢書としては、「日本仏教史にお  
ける神仏習合の周辺(責任編集者  
赤松徹眞氏)」が出版された。また  
龍谷大学善本叢書の「西本願寺宗  
意惑乱一件史料第一巻」(責任編  
集者 平田厚志氏)と仏教文化研究  
叢書の「大乘莊嚴經論」第四章の  
和訳と注解(供養・師事・無量と  
非無量) (責任編集者 能仁正頭  
氏)の二冊もまもなく出版される。  
これらは、永年の研究成果による  
ものである。

A 指定研究(龍谷大学図書館蔵の貴重  
書の研究・出版)

1、日本語日本文学 龍谷大学図書  
館蔵中世歌書の研究(二年度次)

主任・大取 一馬 研究員三六名

(研究の目的)

本プロジェクトの一年目では善本  
叢書に収めるべき典籍「光剛百首」  
「愚見抄」「詞字注」「後鳥羽院  
自讃歌注」「九代抄」の

に分類されているが、龍大図書館本  
は広本系に分類される。当該本は、  
奥書を含め全で一筆で書写されており、  
明応五年(一四九六)当時の書写本  
として認めようように思われ、著者  
孝範の在世時の書写本として貴重  
な伝本といえる。以上、龍谷大学  
図書館蔵の中世歌書五本の書写本  
について調査結果を略述してきた。  
その理由は各々に異なっているが、  
この五本は学術的な意味で特に貴重  
な中世歌書と言え得るものである。

(研究計画)

五点に關して、まずは本学園書館所蔵本の書誌的な研究をし、諸伝本があるものについては各図書館にある伝本を調査し、本学の所蔵本の位置付けをすることを目標としていたが、所期の目的は八割程度出来たものと思われる。また、その成果の一部は昨年十一月に行った仏教文化セミナーで発表したり、仏教化研究所の研究叢書『典籍と史料』をはじめ各論文集に掲載した。本年度は二年目に入るが、中世歌書の書誌的研究を更に押し進めると共に、善本叢書所収の中世歌書についてまとまった形でその解題を作成し、本研究所の紀要に載せる予定である。

上記に三年間の研究計画とその方法を略述したが、本研究では、実際に資料の内容検討を通して、同類の伝本中での位置付けと、内容上の意義を明らかにすることにしたい。また、各資料が日本和歌史の上でどのように位置付けることができるのかについても合わせて考察したい。それには当該資料の検討だけではなく、広く和歌史の勉強も合わせてする必要があるので考えている。

尚、三年目に善本叢書を出版した後、四年目には、三年間の研究成果として研究者全員で原稿を執筆して研究叢書を出す予定にしている。

2. 真宗学 選擇集注解鈔の研究(一、二次)

主任・川添 泰信 研究員九名

(研究の目的)

(初年度)

写本、『選擇集注解鈔』存覚・五卷五冊(大宮図書館写字台文庫・常楽台旧蔵本)

第一・第二、応永二十二(一四一五)年五月、松下隠士某

書写

第三、顯惠書写

第四・第五卷、寛正四(一四六三)年八月、明覚書写(イソシマ本)

ソシマ本)

写本、『選擇集注解鈔』(本派本願寺蔵)

第一・第四・第五(イソシマ本)

第四(顯惠本)

(研究計画)

第一(第五(応永本))  
版本、寛文二(一六六二)年壬寅年秋吉日 吉田庄左右衛門板行  
版本、寛文二(一六六二)年壬寅年秋吉日 大坂心齋橋筋唐物  
町 北田清左右衛門の基本資料の収集  
(二年度)

資料の比較研究ならびに底本の翻刻

(三年度)

研究の総括と論文執筆

最終的には『善本叢書』として出版を行う。

本研究は写本、『選擇集注解鈔』存覚・五卷五冊(大宮図書館写字台文庫・常楽台旧蔵本)

第一・第二、応永二十二(一四一五)年五月、松下隠士某  
書写

第三、顯惠書写

第四・第五卷、寛正四(一四六三)年八月、明覚書写を底本として翻刻を行う。翻刻に際しては、写本、『選擇集注解鈔』(本派本願寺蔵)

第一・第四・第五(イソシマ本)

第四(顯惠本)

第一(第五(応永本))

版本、寛文二(一六六二)年壬寅年秋吉日 吉田庄左右衛門板行  
版本、寛文二(一六六二)年壬寅年秋吉日 大坂心齋橋筋唐物  
町 北田清左右衛門

の写本および版本を参考にして行う。なおその他『選擇集注解鈔』は『浄土宗全書』八卷(四六九〜五三〇)にも収載されているが、何本によったのか解説がないので不明である。

研究については、法然が明らかにした『選擇集』については、法然浄土教が宗派として展開する過程において、門弟において種々の解説書が示されてきた。親鸞門流において存覚の『選擇集注解鈔』はもっとも初期の『選擇集』理解であり、『選擇集』がどのように解釈されていたのか、また日本における浄土教の

## B 共同研究

### 1、臨床心理学 悩みに対する宗教的・心理的アプローチに関する研究（二年度）

主任・吉川

悟 研究員一〇名

（研究の目的）

現在の日本は、物質的には豊かになってきたが、精神的には貧しいといわれる。そして人々の悩みは、深刻化するとともにその悩みを解決する方法が模索されている。

この悩みを解決する方法は、大きく分けて二種類あると考えられる。一つは宗教的な悩みであり、もう一つは心理的な悩みである。この宗教的な悩みは、仏教でいう四苦八苦すなわち生苦、老苦、病苦、死苦、愛別離苦、怨憎会苦、求不得苦、五蘊盛苦などであり、特に死に対する悩みが中心である。これに対して心理的な悩みは、日常生活における個々の悩みであり、この世を如何に生きていくのが中心となる。

従来の日本では、人々の悩みについての解決方法として、各々の檀家寺の住職に相談するという伝統があった。しかし近年、人々の悩みも多様化し、単なる人間性や経験だけでは対応しきれなくなってきた。このため、人々の悩みに対応するには、一定の知識と技術が要求され、今日、多種多様な臨床心理学的アプローチ（カウンセリング）という概念ができあがり発展した。

そこで本研究では、生死を中心とした宗教的な悩みに対するアプローチ（関り）と日常生活を中心とした心理的悩みに対するアプローチの接点および相違点を明らかにするとともに、宗教活動と悩みの相談活動の統合を試みるものである。

（研究計画）

〈前年度〉

宗教的悩みと心理学的悩みの接点と相違点について理論的に説明した。

具体的には「臨床における気付きと宗教における目覚め（二〇一一）」において、その悩みの内容は、宗教的悩みは人類共

通の人間としての本質的な悩みであることに對し、心理的悩みは、個人的な日常生活上の悩みであることがわかった。

（本年度）

これらの異なる悩みを解決するため、宗教的なアプローチ特に仏教における解決のベースを、人と人間を超えたものの智慧との関係として、心理的なアプローチとしては、人と人との関係として分析し、その内容の違いを明らかにする。また宗教的悟りを「目覚め」心理的解決を「気づき」として、両者を比較検討するとともに、具体的事例についても検討する。

### 2、仏教史学 隋代における造塔・造像銘文の調査・研究（二年度）

主任・佐藤

智水 研究員八名

（研究の目的）

本研究は、三百年にわたる分裂状況を統一した隋王朝が、南北に分かれて展開した諸地域の仏教を統合すると共に新たな展開をみせるそのありさまを、文献資料に加えて、造寺・造塔・造像銘文の収集整理によって、隋代仏教の一面を明らかにすることを目的とする。

南北朝・隋という時代は、仏教が中国全土に広まって、寺院のほか石仏・石塔や石窟が無数に造られ（唐の法琳『弁正論』によれば隋後期までに百五十万體以上という）、それらに刻まれた銘文史料は飛躍的に豊富となる。これらの銘文史料は仏教と皇帝支配との相互関係、地域状況とかわる仏教のあり方、そして人間関係・ネットワーク・情報の流れなど、地域に展開する社会像を模索することが可能である、というのが本研究の基本的視座である。

また、隋代は遣隋使を通して我が国との関係が緊密化する時代であり、その意味でも中国に展開した仏教と日本仏教との関係を知る手掛かりともなりうる。

到達目標は、隋代における造寺・造塔・造像銘文の目録作成、及び新史料に基づく考察である。

二〇一一年度は、主として旧北齊領域にあたる河北省・山東省・山西省・河南省地域のうち、山西省と山東省の現地調査を行い、未紹介の石窟や遺跡、仏教文物の史料を収集する。また、

（研究計画）

従来紹介されている遺跡・文物の所在確認と写真撮影・遺録・拓本収集を行う。

二〇一二年度は、主として旧北州領域にあたる山西省・陝西省・甘肅省・四川省地域の現地調査を行い、未紹介の石窟や遺跡、仏教文物の史料を収集する。また、収集した史料について整理分析し、隋代における造像・造塔銘の目録を作成する。

### 3、仏教学 説一切有部思想史の文献学的考察（一年次）

主任・青原 令知 研究員四名

（研究の目的）

本研究は説一切有部の思想史について文献学的考察を通じて解明し、個々に独立した論書群を一つの糸に繋ぎあわせ、従来の研究によってもなお不明確であった思想史の流れを明らかにすることが最終目的である。

現在のアビゲルマ仏教研究が高度に多様化、細分化している中、説一切有部研究においては、「俱舍論」とその註釈文献、『婆沙論』周辺の諸論書、六足論の三つの論書群にその研究領域が大別される。これは思想的に見れば、確立期→発展期→黎明期という発達段階を表わし、それらの間の関係性も種々に考察がなされている。しかし、梵文などの新出資料の文献研究が進む中、より緻密な文献批判が要求されるようになり、従来の文献に基づく見解も修正を余儀なくされる場合も少なくない。また古来より存在が確認されている文献の中であつてもいまだに全貌が明かされていないものも多くある。

本研究においては、上述の三つの研究領域においてそれぞれ文献批判を行ない、当該分野の研究者のために資する資料を提示すること、さらにはそれにより有部思想史の断面を明らかにすることを当面の目的とする。具体的には次の三点に集約する。

- 一、従前の複数の共同研究の成果により本学に将来された、十数点に及ぶ俱舍論関係サンسكريット諸写本のマイクロフィルム複製は、それ以降整理されぬまま手つかずの状態になつている。また入手しうる写本複製の網羅的な収集を目指すしながら、数点がまだ未入手である。この俱舍論関係の写本資料の整理が急務である。

二、説一切有部教学史の上でキーポイントである『婆沙論』の成立史を探るため、二〇〇巻全体を俯瞰できるような資料を作成し、各章節の新古を明らかにして成立事情の一端が明らかになるような結論を導き出す。

三、黎明期のいわゆる六足論は、それを研究対象とする学者が少なく、不明確のまま放置されているのが現状である。特に「俱舍論」時代まで展開する用語の変遷を明確にすることで、思想史の最初の流れを解明する。

（研究計画）

一、俱舍論関係写本について、未入手の写本複製は早急に入手すべく関係機関と交渉し、すべての写本複製を完備したい。同時に現有資料の整理、特に称友（Yasomitra）の俱舍論註（Sphuṭārtha）の諸写本の校合作業を進める。将来的にあつたな校訂本の出版も視野に置き、当面は従前に懸案であつた第九章破我品の校合から着手する。

二、『婆沙論』三訳および関係諸本を対校し、試訳を与えた対照テキストを作成する。

三、六足論および発智論にみられる仏教用語を定義づけた部分を抽出し、用語集を作る。ここでは上の資料の中からも並行して抽出作業を行ない、将来的にはアビゲルマ仏教語辞典のようなものの完成を目指す。

これらは長期計画であり、当面は急務を要する一から順次手がけ、残余も本研究期間のうちに大概の目途をつけられるように進める。

### 4、真宗学 三業惑乱関連書籍の翻刻と註釈（一年次）

主任・殿内 恒 研究員六名

（研究の目的）

江戸幕府は宗教統制政策の一環として、仏教諸宗派の学問を奨励したが、実際の宗学研究は、研究教授機関の整備、修学体系の制度化、さらには印刷技術や出版事業によって可能となつた。本研究は、近世における仏教研究と出版事業との関わりを、浄土真宗本願寺派の教学論争である三業惑乱を手がかりに窺うものである。

三業惑乱は、本願寺派第六代能化功存（一七二〇～一七九六）

が著した『願生婦命弁』（一七六四刊）に対する批判から始まったと言える。やがて天明年間になると、大鱗（生没年不詳）や宝巖（生没年不詳）によって批判書が出され、以後十数年にわたり、主として批判論駁書の刊行を通して論争が繰り広げられていった。

しかしながら、従来の研究では『願生婦命弁』と、その論駁書である大鱗（一七五九〜一八〇四）の『横超直道金剛鉞』（一八〇一刊）のみに研究が集中し、『横超直道金剛鉞』が出版されるまでの論争書のほとんどは、和綴本のまま翻刻されていない状況である。

本計画は、『横超直道金剛鉞』が出版されるまでの論争書から代表的なものを翻刻し、併せて註的研究を行い、それらを公開していくことを目的とする研究の一環である。具体的には、三業惑乱に関連する第一次資料群を広く公開し、研究の一助とすることが本研究プロジェクトの第一次目標であり、従来の研究で等閑に付されがちであった、論争に関する書籍群の内容研究を行うことが第二次目標である。

この研究目的を達成するために二〇〇八年度以降、共同研究・個人研究を通して従来注目されてこなかった関連資料の収集、翻刻並びに註的研究を継続してきた。二〇一二年度以降も、これまでの研究により蓄積された成果の上に、より包括的な研究を進展させるべく、さらなる関連資料の収集と、収集資料の翻刻並びに註的研究に向け、引き続き共同研究を申請するものである。

二〇〇八年度以降、功存『願生婦命弁』刊本に加えて、原稿本・草稿本の資料収集、並びにそれらの総合的な註的研究を行ってきた。あわせて、関連資料の収集に基づいて、『願生婦命弁』への第一次批判書の翻刻データ作成並びに註的研究、第一次批判書への学林側からの論駁書の翻刻データ作成並びに註的研究、加えて『横超直道金剛鉞』原稿本にあたる諸本や善意（芳山）関連諸本の収集並びに比較検討等を行ってきた。二〇一二年度以降は、これまで継続してきた関連資料の収集、

#### （研究計画）

#### C 常設研究

##### 1. 仏教史学

主任・赤松 徹真

研究員十名

##### 親鸞像の歴史の変遷に関する研究（二年度）

（研究の目的）

本研究は、親鸞像の歴史の変遷を文献・図像等の史料を精緻に分析することによって、その変遷のなかに親鸞像の社会的定着を明らかにすることを目的とする。とりわけ、中世での親鸞の実像を起点に、その後の親鸞像は同時に教団形成に関わって親鸞像が描かれ、記録され、社会的に定着してきた。しかしながら、教団形成に関わって形成された親鸞像は、近代以降の歴史視の多様性にもなつて、教団が形成してきた親鸞像とは相違する親鸞像が描かれ、論じられてきた。

そのような動向のなかで、本研究は、親鸞像の歴史の変遷を文献・図像・木像などの検討から、歴史的過程・背景とともに親鸞像の歴史の変遷を実証的に明らかにしつつ、親鸞像の宗教的立場と歴史社会との関係性について知見を提起しようとするものである。

二年度目となる本年は、親鸞像の歴史の変遷について、引き続き文献・図像などの分析・検討を加えて、中間報告を重ねることとする。

三年度には、親鸞像の歴史の変遷に関する文献・図像などの分析・検討に基づいて、研究のとりまとめとして、中間報告を重ねて、とりまとめを行う。

本研究は、親鸞像の実像を起点にすることはいうまでもない。したがって、親鸞像の実像を十三世紀の歴史社会および親鸞を取り巻く仏教的環境を踏まえて、専修念仏に帰依して生涯を歩んだ親鸞の実像を明確にする。そして親鸞像の歴史の変遷を分析するには、諸本がある『親鸞伝絵』の親鸞像を分析・検討す

#### （研究計画）

## 2、真宗学

龍谷大学図書館蔵真宗古文庫の研究（一、二次）

主任・内藤 知康

研究員十八名

### （研究の目的）

ることをはじめ、「鏡御影」などの影像や木像などの検討が欠かせない。その後の教団形成のなかで親鸞像は、一定の定まった親鸞像が形成されていった。したがって、本研究を推進するには、文献・記録・図像などの収集による親鸞像の整理が必要となるため、組織的な研究の取り組みが欠かせないと考える。さらに、その親鸞像には、親鸞の宗教的立場と社会との関係がどのようなものであったのかという方法意識をもって整理する。また、近代の歴史社会は、歴史像の多様性を生みだし、教団の描いた親鸞像を相対化する親鸞像が語られ、記録されたが、それらは多様な親鸞像を生み出すものであったため、文献・記録などの収集、整理・検討が必要となる。

本研究には、文献・図像・木像などに見られる親鸞像の整理が欠かせないため、史料調査等をふくめて取り組んでいきたい。

龍谷大学図書館には、真宗関係の貴重な古文庫が多数所蔵されてお

り、それは他図書館に例を見ない本学図書館の特徴である。それらの古文庫は、主に大宮西覚書庫、写字台文庫、新写字台文庫、龍谷蔵等にわたって収蔵・保管されているが、貴重なものであっても、いまだその資料的価値や思想内容に関する評価が、十分でないまま放置されている文献も少なくない。

本研究プロジェクトは、それら龍谷大学図書館に所蔵される注目すべき真宗古文庫を取り上げ研究するものであり、かかる基礎的な文献研究を通して、今後の真宗学研究の更なる進展に寄与することを目的とするものである。

なお、本研究プロジェクトに言うところの「真宗古文庫」とは、基本的に江戸時代までの真宗関係の写本ならびに版本を意図している。

### （研究計画）

初年度（二〇一一年度）は、基礎的研究として、これまでの龍谷大学図書館所蔵を中心とした真宗古文庫に関する研究成果・資料を網羅的に収集し、研究状況の把握と整理を行う。また、研究員相互の研鑽を目的とした真宗古文庫に関する研究会

を行う（必要に応じ外部講師を招聘する）とともに、研究談話会を開催して広く意見交換を行う。

次年度（二〇一三年度）は、研究成果・資料の収集と整理、真宗古文庫に関する研究会、研究談話会の開催を継続しつつ、研究対象とすべき文献のピックアップならびに個々の文献研究を進めていく（必要に応じ翻刻作業が伴う）。

最終年度（二〇一四年度）は、個々の文献研究の継続とともに、研究談話会等の開催を通してその成果を共有し、さらに深めていく。その上で、各種学会での研究発表・論文執筆を行い、最終的な研究成果をまとめる。また、資料収集の整理を行う。

## 3、仏教学

仏教写本の文献学的研究（一、二次）

主任・若原 雄昭

研究員三六名

### （研究の目的）

仏教研究は先ず何よりも確実な文献学的研究の上に進められなければならない。文献学的研究は厳密な写本資料批判にもとづかなければならない。本プロジェクトは、インド・チベット仏教、西域仏教、そして日本・中国仏教を専門領域とする仏教学科教員が一体となり、学外の専門研究者とも連携しつつ、本学所蔵の豊富な資料を活用し又広く国内外に新資料を求めながら、各々の分野における学的基础となる写本資料に関する共同研究を展開し、以て斯学の一層の発展に寄与せんとするものである。

インド・チベット仏教の領域では、現在中国西藏自治区で次々と再発見されつつある梵語仏典写本を中日両国の研究者が協力して研究する体制を確立し、写本の批判的校訂出版などを通じて世界の仏教学界に貢献することを目指す。研究分担者柱の数年来的努力によって、西藏僧院に保存されてきた梵文写本写真・画像データを保管する北京の中国藏学研究中心と本学との緊密な学術交流は既に軌道に乗り、二〇一一年秋に両者間の正式な学術協定が締結された。期間内の具体的・個別的な目標は、下記の研究計画・方法欄において写本の研究や出版計画として後述する如くである。西域分野に於ては、大谷探検隊将来写本資料を主たる対象に、国内外の同種資料とも比較対照しつ

(研究計画)

つ継続して研究して行く。日本仏教の分野に於いては、天台、浄土教、法相唯識、華嚴宗関連の写本を所蔵する諸寺・図書館の所蔵調査と研究を進める。中国仏教の分野では、漢訳経論写本を中国仏教教学史との関連に留意しつつ、また地理的・時代的狀況を反映する石刻経論と比較しながら研究する。

主たる研究目的である中国蔵学研究センターと本学との人的交流を更に推進する。桂・若原兩名に他の研究者を加えて同センター訪問を重ね交流の実を挙げる。蔵学センターからはダンドゥル蔵学センター副所長、李研究員を沼田研究奨学金の交付を得て二〇一一年度後半に招聘する。前者は主としてアティシヤ著作の研究を、後者は自身の研究課題である「入中論」及び他の新写本『阿毘達磨集論』につき共同研究を行う。また既に密教関係の梵文写本三点を校訂出版し、また律文献の写本研究を進めている同センターの羅鴻副研究員を同年秋季に招聘し、後期インド仏教論書新写本の研究を進める。上記の結果は逐次蔵学研究センターから出版可能な状態にする。写本の種別に応じて、梵語仏典写本研究の第一人者仏教大学松田和信教授、蔵学研究センターとの共同研究による数点の写本校訂出版の実績のある人情報学研究所主席研究員苦米地等流博士、中観仏教研究の権威である東京大学齊藤明教授、涅槃経他大乘經典研究の第一人者同下田正弘教授、西藏僧院伝来の写本研究で優れた業績を挙げた加納和雄高野山大学助教、ネパール写本を中心として梵文写本全般に精通する京都大学文学研究科Dwarkan Acharya教授、ネパール写本やネワル語に詳しい種智院大学Sudan Shakya准教授に協力を求める。併せて、若原はバングラディッシュ国内での梵文写本探索を継続して得られた成果を報告すると共に、一定の資料的価値を有するものがあれば研究を進める。

西域分野では三谷が中心となって大谷探検隊将来資料を所蔵する本学をはじめとする国内研究機関や、中国旅順博物館など国外所蔵機関と連携して探検隊収集の仏教写本の総合的調査を行う。また、同時期に同地域から収集されたドイツ隊将来資料との比較対照研究を推進するとともに、国際敦煌プロジェクト

D 特別指定研究

1、大谷探検隊将来資料の総合的研究

主任・入澤 崇 研究員六一名  
(研究の目的・計画)

(IDP)のネットワークを最大限活用しながら、敦煌・トルファン出土の仏教写本に関する国際的・学際的研究をめざす。日本仏教分野では、下記研究経過欄に示したような従来の実績を踏まえて、滋賀・京都・奈良を中心に古写本を収蔵する諸寺や図書館の所蔵調査と研究を進める。浅田・道元は天台関係、藤丸・野呂は華嚴関係を、楠は法相唯識関係写本(短尺等)を、それぞれ主たる担当として調査研究を進める。中国仏教に関しては、中国仏教教学にも影響を及ぼすような漢訳経論の写本間にみられる文の異同の問題を抽出し、その相関関係を調査する。また、中国石刻経論(特に部分や抜粋)との比較を通して、写経や石刻の目的や写経・石刻の対象となっている文献の比較も行う。

本研究は大谷探検隊が中央アジアで収集した資料の全容を明らかにすることを目的とする。半世紀の歴史を有する本研究会がかつて出版した『西域文化研究』全六巻はわが国における西域研究の基盤を作り上げたばかりか、国際的にも評価の高い、まさに西域学の一大金字塔であった。しかし、近年の内外における西域学の進展は目を見張るものがあり、『西域文化研究』はそろそろ過去のものとなりつつある。そこで本研究会は長期計画(二〇一一年度～二〇二一年度)の到達目標として、近年の研究成果を盛り込んだ新たな『西域文化研究』の刊行を掲げる。その目標を実現するために、以下の四つの班を編成し準備にあたる。

①大谷探検隊将来文字資料の調査研究(代表:三谷真澄)

本研究会の伝統である写本研究を継続して行い、「トルファン写本」「敦煌写本」の研究を主になす。二〇〇二年より旅順博物館との共同研究が開始され、旅順博物館所蔵の大谷探検隊将来資料の調査研究が本格化してきた。同館所蔵の二

六〇〇〇点にも及ぶ漢文仏典写本の同定作業は日中双方で遂行された。

二〇一一年度までの非漢字資料の調査研究により、文献資料の基礎的研究は終えたので、二〇一二年度は、ベルリンやイスタンブールに所蔵されるドイツ隊将来資料や、IDPの国際ネットワークを活用して比較対照研究にあたる。

#### ②西域仏教美術の調査研究（代表・宮治昭）

大谷探検隊が収集した美術資料の研究を主としつつ、西域仏教美術の総合的研究を目指す。大谷探検隊がもたらした美術資料は主に東京国立博物館と韓国中央国立博物館に所蔵されているが、中国の旅順博物館にも第一次大谷探検隊が収集したインド・ガンダーラの彫刻及び西域の壁画が所蔵されており、二〇一二年度はそれらの資料を研究対象とする。

#### ③モンゴル仏教寺院址の調査研究（代表・村岡倫）

第二次大谷探検隊の行ったモンゴル調査の検証をなす。第二次大谷探検隊によるモンゴル調査はモンゴル研究の先駆をなしながら、これまで十分に検証がなされてこなかった。近年、大谷大学のチーム（代表・松川節）が現地調査を敢行し、研究の先鞭をつけた。大谷大学とも連携をとりながら、前年度に引き続き、二〇一二年度も第二次大谷探検隊のエルデンゾー寺院の調査を検証していく。

#### ④西域仏教遺跡と大谷探検隊の調査研究（代表・入澤崇）

大谷探検隊が目指した仏教の広がりを探求する精神を継承し、西域仏教遺跡の総合的研究をなす。同時に、近代史における大谷探検隊及び大谷光瑞の意義を深く探っていく。二〇一二年度は、特に第一次大谷探検隊の検証をなすことに主眼を置き、インド・ガンダーラ・中国新疆の遺跡調査の実態を探っていく。

### 2、大正新脩大藏經の学術用語に関する研究

主任・浅田 正博 研究員十七名

（研究の目的・計画）

本研究を推進する大藏經学術用語研究会の目的は、大正新脩大藏經を中心とする漢文仏典中の重要語を抽出・整理し、分

析・研究を加えることにある。漢文仏典中の重要語とは「仏教要語」そのものであるが、本研究会では、辞書的説明に依存せず、文献そのものからその要語の意味を抽出し、使用法等を分析することによって、その要語の意味する内容が地域や時代に応じてどのような変遷をたどってきたのかを研究する。二〇一二年度も前年度に引き続き、二種類のテーマを求めてそれを追求したい。

その一は、「戒律関係用語の研究」で、土橋秀高先生の遺稿の出版の再調査や意味内容の再検討等の修正・加筆を行い「戒律事典」（仮称）の出版を目指している。

そして他の一つは「仏教における生死観に関する学術用語の研究」であって、戒律事典出版後の基礎的研究である。これは現在社会問題ともなっている「自殺」や「安楽死」などの問題を含めた「生死」に関する仏教用語に焦点をあてて考察し、経典の原意と註疏類の解釈を検討する中においてこの「生死」の問題を仏教は如何に理解するかを種々に研究したいと考えている。

研究の進め方としては、「戒律系用語の研究」では、例年通り、月に一度の研究会を設けて、各研究員が十項目ほどの修正・加筆を加えたものを全体で討議し、「戒律辞典」の原稿を作成する。二〇一一年には全体の三分の二の原稿を書き終えたので、二〇一二年度にはその全ての修正と加筆を終了させ、全体的なバランスをはかるように項目ごとに字数の調節を行い、出版形態などを検討したい。

他方「仏教における生死観に関する学術用語の研究」では、本研究会の構成員を中心とし、特に漢文仏教要語に関心を持つ研究者や院生を加えた研究会を、月一回程度開催し、テーマである「仏教における生死観に関する学術用語の研究」に関する発表を行う（公開可）。手法としては、原則として、経典の原意・註釈書の解釈を並記し、その他の特徴的な要素も加えながら発表を行い、参加者同士の議論を通して、さらに洗練された内容にしていきたい。年次研究において「生死」の要語に関する



る研究成果については、『佛教文化研究所紀要』に発表したいと考へてゐる。この作業を継続的に行つて行くにやむを得ず、それは「仏教における生死観の研究」にしてはとめることも可能である。

また、漢文仏典や仏教要語に関するテーマで「仏教文化セミナー」を開催したいと考へてゐる。

### 3. 仏教経典の翻訳と研究

主任・マリス ロロヤ 研究員三九七名

(研究の目的・計画)

— to encourage and support the translation and/or publication of writings that will further the understanding of Pure Land Buddhist thought and teachings in broad international perspectives. Such writings, which will be published through the Center as Center publications, include:

- primary Buddhist texts/sutras, treatises, traditional commentaries, significant historical writings;
- modern secondary literature on Pure Land Buddhist thought and teachings, including both scholarly and popularly oriented approaches;
- comparative and interreligious treatments of Pure Land Buddhist thought and teachings.

Because academic treatments of Pure Land Buddhist tradition undertaken in other parts of the world are at present primarily historical and sociological in methodology and have adequate venues for publication elsewhere, the Center feels a particular commitment to approaches treating Japanese Pure Land Buddhist thought in contemporary interpretive, comparative, theological, and philosophical perspective.

Activities of the Center

—the major activity of the Center is the preparation and review of translations of primary Buddhist texts that further

the understanding of Pure Land Buddhist tradition, particularly the Japanese tradition.

—the Center also encourages the preparation of publication as Center publications translations and original secondary studies that advance its basic aims.

—the Center will sponsor public lectures, workshops, and symposia that advance its basic aims. Such presentations will be published as monographs and edited volumes through the Center as Center publications.

Activities of the Center during 2011-2012

During this period, two translations will be continued to be reviewed at the weekly general meetings: *Muryōju nyorai-e* and *Hasshū kōyō*.

A workshop related to the discussion of Shin Buddhist thought in a contemporary, comparative context will be planned, with the results of the presentations published from the Center.

Manuscripts will be sought, particularly from Shin Buddhist ministers abroad, to continue the Dharma Talk Series aimed at a popular audience.

Selected publications from the Center will be made accessible online. This should acquaint readers around the world with the Center and increase sales of Center publications.

Efforts will be made to increase sales of publications through Shin temples and temple bookstores abroad.

### E 個人研究

1. K・フローレンツ 『日本文学史』における仏教的形象の考察

藤田 保幸

(研究の目的)

K・フローレンツは、明治二〇年代に米日して、帝国大学で独語独文学及び比較言語学を講じたいわゆるお雇い外国人教師

で、日本におけるドイツ学の基礎を築いた人物として知られているが、フロレーンツの本来の学問的関心は日本文学の研究にあり、まだ日本文学通史といえるものがほとんどなかった時代に大部の『日本文学史』（独文）を著したことは、注目に値する。筆者はこのところ独文で六四〇頁を超えるこの書物の翻訳に取り組んでおり、目下三五〇頁（日本文学史では、中世文学の章の過半まで）の訳稿（注解を含む）を作成した。今後は、さらに翻訳を進めるとともに、本書の内容の分析を進める必要を感じているが、その分析の一環と位置付ける本研究では、日本文学に現れた仏教的観念・形象をフロレーンツ『日本文学史』がどのように訳出・解説し、また評価しているかを分析することを通して、異なる言語文化を背景とする十九世紀のヨーロッパ人が、日本文学と仏教の関わりをどのように見ていたのかを解明する。

具体的には、中世まで範囲で日本文学と仏教に関するフロレーンツ『日本文学史』のとらえ方を解明し、一、二本の論文としてまとめて公にする。中世までと限定するのは、日本文学において中世までが一つの貫性を持った連続として見られる面が強い故であり、また、現在の訳稿（及び注解）作業の進行との関わりから、このあたりまでの分析が可能と判断するためである。

#### （研究計画）

- ① 中世までのフロレーンツ『日本文学史』の内容を、目下作成中の訳稿とその注解に基づき、仏教関連の記述に焦点を当てて整理し、特色的な事項を洗い出して整理し、本書の仏教に関する見方を明らかにする。
- ② ①のためにフロレーンツ『日本文学史』の中世までの章の翻訳を終える（見やすくするために、訳稿の完成した分は冊子化する）。
- ③ 本研究の内容は、日本におけるドイツ学史とも関連が深いので、①の分析の目処を秋の前までに立てて、その内容を日本文学史学会において発表して意見・批判をもらい、更に研究を深める。

#### 2、本願寺良如と初期学寮

平田 厚志

#### （研究の目的）

- ④ 研究内容を年度末までに論文化し、『仏教文化研究所紀要』に公表する（研究の結果、論ずべき事柄が多岐にわたることになる場合は、複数の論文を用意し、別の研究誌等にも公表する）。

本研究は、龍谷大学の草創期である江戸前期初期学寮期に焦点を定め、その歴史の解明を目指すことを目標とする。

学寮の創設を強く望んだのは本願寺良如宗主であったが、何のために本願寺の「学寮」創設を望まれたのか、その歴史的要請と宗主の学問観に鋭く迫りたい。かつ、「初期学寮」期を創設から破却までの約二十年間と設定したとき、その間には「本願寺の関懐」と呼ばれる教学論争が勃発し、さらにそれが発端となって本願寺と興正寺の抗争にまで拡大して、ついに学寮破却にまで及ぶという、重大事件を経験することになった。「初期学寮」期に起った、これら一連の事件の歴史的背景を探り、その歴史の意味・意義を、真相解明を通して明らかにしておくことは、『龍谷大学四百年史』に向けて必要不可欠な、今なすべき重要課題であろう。この事件に関係する新史料も近年公刊され研究も活発化することが予想されるが、我が大学の初頁の出来事だけに、大学関係者の手で解明することが望まれる。

#### （研究計画）

「本願寺の関懐」を発端とする本願寺・興正寺一件史料は、龍谷大学図書館にも断片的に存在するが、全容解明のためには彦根藩井伊家文書中の「浄土真宗異義相論」文書（彦根城博物館所蔵）に依ることが不可欠である。本文書は、幸い「龍谷大学仏教文化研究叢書二十」として二〇〇八年三月に本研究所から刊行することができた。その際、史料解説の上、まずは史料を翻刻することに重点を置いたために、二七〇点に及ぶ史料の解明・分析は、今後の研究にゆだねられることになった。小生は、本文書の研究論文編に「総論」として事件の概要を記述したが、一点一点の史料分析・精査をしたうえでのものではないため、不十分な解説にとどまっている。初期学寮に関するこの貴重な

史料を再度読み直して、全容解明を試み、一書にまとめて、来る「龍谷大学四百年史」編纂時の参考文献の一書となるべく、寄与したい。

◇平成二十四年度 兼任・客員研究員〈新規〉◇(順不同)

- 大取班  
田中 費子(甲南大学教授)  
寺尾 卓之(丹波桜梅園指導員)  
山本 廣子(元家庭裁判所調査官)  
川添班  
川添 泰信(本学文学部教授)  
杉岡 孝紀(本学文学部教授)  
高田 文英(本学文学部講師)  
玉木 興慈(本学短期大学部准教授)  
那須 英勝(本学文学部教授)  
藤 憲之(本学非常勤講師)  
塚本 一真(浄土真宗教学伝道研究センター)  
福田 依正(浄土真宗教学伝道研究センター)  
三栗 章夫(浄土真宗教学伝道研究センター)  
吉川班  
吉村 哲明(弘前愛成会病院精神科医)  
佐藤班  
赤羽奈津子(本学アジア仏教文化センター)  
I R A・本学文学部研究科研究生)  
青原 令知(本学文学部教授)  
若原 雄昭(本学文学部教授)
- 殿内 恒(本学社会学部教授)  
殿内 良彦(本学非常勤講師)  
殿内班  
井上 善幸(本学法学部准教授)  
井上 見淳(本学文学部講師)  
能美 潤史(本学非常勤講師)  
堀 祐彰(本学非常勤講師)  
三浦 真証(本学非常勤講師)  
内藤班  
内藤 知康(本学文学部教授)  
井上 見淳(本学文学部講師)  
井上 善幸(本学法学部准教授)  
岩田 真美(本学文学部講師)  
川添 泰信(本学文学部教授)  
杉岡 孝紀(本学文学部教授)  
高田 文英(本学文学部講師)  
高田 満也(本学国際文化学部教授)  
武田 晋(本学文学部教授)  
龍溪 章雄(本学文学部教授)  
玉木 興慈(本学短期大学部准教授)  
殿内 恒(本学社会学部教授)  
那須 英勝(本学文学部教授)  
鍋島 直樹(本学文学部教授)  
林 智康(本学文学部教授)

- ヒロタ デニス(本学文学部教授)  
深川 宣暢(本学文学部教授)  
藤 能成(本学文学部教授)  
若原班  
若原 雄昭(本学文学部教授)  
青原 令知(本学文学部教授)  
浅田 正博(本学文学部教授)  
岡本 健資(本学政策学部講師)  
桂 紹隆(本学文学部教授)  
楠 淳澄(本学文学部教授)  
能仁 正顕(本学文学部教授)  
野呂 靖(本学文学部講師)  
長谷川岳史(本学経営学部教授)  
藤丸 要(本学経済学部教授)  
三谷 真澄(本学国際文化学部教授)  
道元 徹心(本学理工学部准教授)  
吉田 哲(本学文学部講師)  
芳村 博実(本学文学部教授)  
荒牧 典俊(京都市立東山高等学校)  
岩本 明美(鈴木大拙館主任研究員)  
岡崎 康浩(広島県立東高陽高等学校)  
加納 和雄(高野山大学助教)  
五島 清隆(同志社大学等非常勤講師)  
齊藤 明(東京大学名誉教授・本学非常勤講師)  
ザイレ フロリアン(カリフォルニア大学バークレー校非常勤講師)  
下田 正弘(東京大学大学院人文社会学部研究科教授)  
スタン シャキヤ(種智院大学准教授)
- 玉村 禎郎(杏林大学外国語学部・大学院教授)  
タンドゥル(中国蔵学研究中心宗教研究所副所長)  
ディワカル アーチャールヤ(京都大学大学院文学研究科教授)  
苦米地等流(一般財団法人人情報学研究所主席研究員)  
内藤 昭文(本学非常勤講師)  
那須 円照(本学文学研究科博士課程修了)  
那須 良彦(本学非常勤講師)  
乘山 悟(本学非常勤講師)  
藤田 祥道(元本学非常勤講師)  
松田 和信(仏教大学仏教学部教授)  
神子上惠生(本学名誉教授)  
李 学竹(中国蔵学研究中心宗教研究所副研究員)  
羅 鴻(中国蔵学研究中心宗教研究所副研究員)  
入澤班  
上枝いづみ(本学大学院文学研究科研究生)  
片山 章雄(東海大学教授)  
慶 昭蓉(北京大学歴史系中国古代史研究中心研究員)  
劉 安志(武漢大学歴史学院副院長・教授)  
浅田班  
佐長 道亮(中央仏教学院講師)  
佐竹 真城(本学大学院文学研究科研究生)

ヒロタ班

ウゴデッシン(ライプツィヒ大学講師)  
桂 文子(本学名誉教授)

タニエル フリードリッヒ(マクマスタ  
ー大学宗教学部 大学院研究員)

日野 拓也(コロンビア大学博士号取得)

個人研究

藤田 保幸(本学文学部教授)

平田 厚志(本学文学部教授)

二〇一二年度龍谷大学沼田奨学金研究奨  
学金受給者及び外国人客員研究員

氏 名 劉 安志氏(中国 武漢大学  
歴史学院副院長・教授)

研究課題 中国中世高昌における民衆の  
仏教信仰の諸問題

指導教授 都築晶子文学部教授

研究期間 二〇一二年度四月十日〜二〇一  
二年九月十日

氏 名 李 学竹氏(中国 中国蔵学  
研究中心宗教研究所副研究  
員)

研究課題 〈入中論〉偈頌の梵藏漢対照

指導教授 若原雄昭文学部教授

研究期間 二〇一二年度十一月一日〜二〇  
一三年一月三十一日

氏 名 テジエ ドマ氏(中国 中国  
蔵学研究センター宗教研究所教  
授)

研究課題 チベット仏教の歴史

指導教授 能仁正顕文学部教授

研究期間 二〇一二年度十月一日〜二〇一  
三年三月三十日

氏 名 シヤントウ バルア氏(バン  
グラデシユ ダツカ大学パー  
リ学仏教学科講師)

研究課題 京都と奈良における出家僧の  
生活様式―ベンガルと日本の  
比較研究―

指導教授 岡本健資政策学部講師

研究期間 二〇一二年度十一月一日〜二〇一  
三年三月三十一日

二〇一二年度龍谷大学外国人客員研究員

氏 名 ケサンギヤル氏(中国 中  
国社会科学学院世界宗教研究所  
教授)

研究課題 東チベット王国の仏教の歴史

指導教授 能仁正顕文学部教授

研究期間 二〇一二年度十月三十一日〜二  
〇一三年二月二十八日

◇研究所日誌◇

―平成二十三年度(後期)―

十二月二十日(火) 午後四時四十五分  
〜午後六時十五分

第十回研究談話会(佐藤研究室)

会場 大宮学舎南費一〇三教室

講 題 『高王観音経』の成立と観音像

講 師 倉本尚徳氏(本学客員研究員)

一月二十三日(月) 午後二時〜午後五  
時  
第十一回仏教文化セミナー

会場 大宮学舎西費大会議室

講 題 敦煌出土文献にみる草創期の  
チベット仏教

講 師 上山大峻氏(本学名誉教授)

講 題 二〇〇〇年以來中国敦煌藏文  
文献研究概覽

講 師 黄 維忠氏(中国蔵学研究  
中心『中国蔵学』編集部・本学  
客員研究員)

コメンテーター 三谷真澄氏(本学国  
際文化学部准教授)

一月二十五日(水) 午後〇時三十分〜  
午後一時

第七回運営会議

1. 二〇一二年度外国人客員研究員任  
用予定者の期間変更について

2. 二〇一二年度仏教文化講演会につ  
いて

二月十四日(火) 午後五時三十分〜午  
後七時

第十一回研究談話会(殿内研究室)

会場 大宮学舎南費一〇一教室

講 題 三業惑乱の背景

講 師 三栗章夫氏(本願寺教学伝道  
研究センター常任研究員)

二月二十七日(月) 午後一時十五分〜  
午後二時四十五分

第十二回仏教文化セミナー

会場 大宮学舎西費大会議室

講 題 戦後親鸞論への道程 ―マル  
クス主義という経験を中心に  
―

講 師 近藤俊太郎氏(本学非常勤講  
師)

三月十三日(火) 午後〇時十五分〜

午後〇時四十五分)

第八回運営会議

1. 二〇一二年度運営体制・運営会議  
構成員について

2. 二〇一二年度兼任研究員・客員研  
究員について

3. 外国人客員研究員の任用期間延長  
について

4. 国立情報学研究所が電子化・公開  
した本研究所紀要・所報コンテン  
ツの本学学術機関リポジトリ(R-  
SITE)への提供について

―平成二十四年度(前期)―

四月二十五日(水) 午後〇時三十分〜  
午後一時

第一回運営会議

1. 二〇一二年度研究体制・役員につ  
いて

2. 二〇一二年度客員研究員の追加・  
取消・変更について

3. 二〇一二年度研究所予算について

4. 仏教文化研究所紀要第五十一集・  
所報第三十六号の執筆予定者につ  
いて

5. 二〇一二年度仏教文化講演会・仏  
教文化セミナー・研究談話会の開催  
について

6. 二〇一一年度研究P-I研究年次経  
過報告書の審査について

五月十六日(水) 午前十時四十五分〜  
午後〇時十五分

第七十八回仏教文化講演会

会場 大宮学舎東費一〇三教室  
講題 タイ仏教僧団の教育制度  
講師 プラマハ・タナー・テーシャ  
タンモー氏(タイ国タンマ  
グーイ寺院教育部副部長・タン  
マチャイ大学設立プロジェクト  
代表)

六月六日(水) 午後〇時三十分〜午後  
一時

第二回運営会議

1. 二〇一一年度研究プロジェクト研究年次経  
過報告書の審査について

2. 二〇一一年度研究プロジェクト研究年次経  
過報告書に関するヒアリングにつ  
いて

3. 二〇一一年度沼田奨学金(研究奨  
学金)受給および外国人客員研究員  
任用予定者の期間変更について

六月二十日(水) 午後六時三十分〜午  
後八時

第一回研究談話会(赤松研究班)

会場 大宮学舎本館二階会議室  
講題 二種類の文覚上人像―新出神  
護寺本の分析から―

講師 大河内智之氏(和歌山県立博  
物館学芸員)

六月二十二日(金) 午後一時十五分〜  
午後五時三十分

第二回研究談話会(ピロタ研究班)

会場 大宮学舎西費二階大会議室  
講題 親鸞と《無量寿経》―ジャン

ルの解釈学―

講師 James Frederick's氏(ロー  
ラ・メリーモント大学教授  
(キリスト教神学))

講題 《無量寿経》の漢訳と中国哲  
学

講師 Mark Csikszentmihalyi氏  
(カリフォルニア大学バーク  
レー校教授(中国哲学))

講題 親鸞と仏教伝統における解釈  
学

講師 Charles Hallisey氏(ハーバ  
ード大学神学部教授(仏教  
学))

七月二十五日(水) 午後〇時三十分〜  
午後一時十分

第三回運営会議

1. 二〇一三年度研究プロジェクト募  
集について

2. 二〇一三年度専任研究員の募集に  
ついて

3. 二〇一三年度善本叢書・仏教文化  
研究所叢書の出版助成募集について

4. 二〇一二年度客員研究員の追加に  
ついて

5. 二〇一二年度外国人客員研究員任  
用予定者の期間変更について

6. 図書費について

七月二十五日(水) 午後五時三十分〜  
午後七時

第三回研究談話会(赤松研究班)

会場 大宮学舎西費三階小会議室

講題 明治前期の教団改革にみる親  
鸞像

講師 中西直樹氏(本学文学部准教  
授)

九月二十日(木) 午後二時〜午後五時

第四回研究談話会(佐藤研究班)

会場 白亜館二階共同研究室  
講題 ベトナム隋大業―四年碑文に  
ついて―

講師 川上麻由子氏(日本学術振興  
会特別研究員(RPD))

十月五日(金) 午後三時〜午後四時三  
十分

第五回研究談話会(入澤研究班)

会場 大宮学舎西費二階大会議室  
講題 近年出土のトルファン文書及  
びその研究について

講師 曹洪勇氏(新疆吐魯番地区文  
物局副局長・吐魯番博物館館  
長)

十月十六日(火) 午後三時〜午後四時  
三十分

第七十九回仏教文化講演会

会場 大宮学舎清和館三階ホール  
講題 近世ヨーロッパ支配階級の多  
言語性

講師 ビーター・バーク氏(ケンブ  
リッジ大学名誉教授)

十月十七日(水) 午後〇時二十分〜  
午後〇時三十分

第四回運営会議

1. 二〇一三年度沼田奨学金(研究奨

学金)受給者の推薦審査および外国  
人客員研究員の任用について

2. 仏教文化研究所客員研究員への研  
究者番号発行について

十月二十四日(水) 午後〇時三十分〜  
午後一時

第五回運営会議

1. 二〇一三年度専任研究員について

2. 二〇一三年度出版助成(善本叢  
書・研究叢書)の予算案について

3. 二〇一三年度研究プロジェクト採  
用審査について

4. 図書費について

十月三十一日(水) 午後五時三十分〜  
午後七時

第六回研究談話会(殿内研究班)

会場 大宮学舎西費三階小会議室  
講題 三業惑乱における興正寺の動  
向

講師 北岑大至氏(本学ORC研究  
助手)

十一月八日(木) 午後五時〜午後七時

第七回研究談話会(若原研究班)

会場 大宮学舎西費二階大会議室  
講題 台湾に於ける唯識佛教の研究  
状況について

講師 釋惠敏氏(法鼓佛教學院校  
長・國立台北藝術大學教授)

講題 大乘莊嚴經論本頌の教と韻律  
について

講師 岩本明美氏(鈴木大拙館主任  
研究員)

十一月二十九日(木) 午後六時～午後八時

第八回研究談話会(川添研究班)

会場 大宮学舎清風館三〇一共同研究室

講題 「選擇集注解鈔」の資料検討について

講師 川添泰信氏(本学文学部教授)  
十二月十七日(月) 午後六時三十分～午後八時

第九回研究談話会(赤松研究班)

会場 大宮学舎本館二階会議室

講題 親鸞像における非僧非俗の問題性

講師 中川修氏(本学文学部教授)

十二月十日(月) 午後五時三十分～午後七時

第十回研究談話会(殿内研究班)

会場 大宮学舎南翼一〇三教室

講題 讃岐の法義騒動と大鱗『真宗安心正偽篇』

講師 北岑大至氏(本学ORC研究助手)

十二月十五日(土) 午後二時～午後三時三十分

第十一回研究談話会(佐藤研究班)

会場 大宮学舎北翼一〇一教室

講題 「巨始光等造像碑」に見る東地域社会―国境地域における仏教・「土豪」・国家―

講師 北村一仁氏(本学非常勤講師)

十二月十八日(火) 午後一時十五分～午

後四時

第十二回研究談話会(入澤研究班)

会場 大宮学舎清風館三〇一・三〇二共同研究室

講題 西域北道の燃燈仏授記の伝統 ※通訳あり。

講師 イネス・コンチャック氏(ペルリン国立アジア美術館研究員)

講題 亀茲壁画における大画面誓願図の類型表現

講師 森美智代氏(早稲田大学招聘研究員)

平成二十四年十二月二十六日発行

龍谷大学 仏教文化研究所

代表者 内藤 知康

〒六〇〇―八二六八

京都市下京区七条通大宮東入

大工町一二五―一

電話〇七五(343) 三三二一(代)

内線5400



into ones approach. That such sources are difficult to acquire and work with goes without saying. Nevertheless, any attempt to accurately assess either the history of the Japanese Hossō tradition, or indeed the role that Hossō (as well as other schools whose primary texts have yet to be published) played within the larger context of Japanese Buddhist intellectual history that does not take manuscript sources into account is bound to result in a skewed, biased, and ultimately inadequate understanding of the Japanese Buddhist tradition.

◇研究所収書目録◇

〈平成二十三年度登録図書一覧〉 CLS/BANO/VOL.NO OPTCLM3 <sup>3</sup>	299.9/GAN/2009-10	元興寺文化財研究所研究報告 2009・2010 / 元興寺文化財研究所編集
369.5/ H A M Chahār faSl (bidān) : Muhimmāt al-muslimin/MullāMir Mahmūd b. Mir Rajab Divāni Begī Namangāni ; 濱田正美解説	709.8/ G A N 576/ S A T	もの・ワザ・情報 : 古の匠に挑む : 古墳時代金工品の復元 : 平成 21 年度秋季特別展 / 元興寺文化財研究所編集 熊野灘沿岸地域を中心とした中世・近世葬送墓制の研究 / 佐藤聖聖 [ほか研究]
201.8/ A N J 安城御影:親鸞聖人像の原点:特別展 / 安城市歴史博物館編集	422.004/TON/12	敦煌吐魯番研究 第 12 卷 / 香港中華文化促進中心等合辦
829.5/ W U Y New materials on the Khitan small script : a critical edition of Xiao Dilu and Yelü Xiangwen / Wu Yingzhe and Juha Janhunen:hbk : hbk	023/1362/1	【顯淨土眞實教行證文類】復刻 1 : 宗祖親鸞聖人七百五十回大遠忌 : 西本願寺本 / [親鸞著]
360/ M O L Experiencing the world's religions : tradition, challenge, and change / Michael Molloy ; T.L. Hilgers, principal photographer	023/1362/2	【顯淨土眞實教行證文類】復刻 2 : 宗祖親鸞聖人七百五十回大遠忌 : 西本願寺本 / [親鸞著]
208/ S T M /27 How Ajātaśatru was reformed : the domestication of "Ajase" and stories in Buddhist history / Michael Radich	023/1362/3	【顯淨土眞實教行證文類】復刻 3 : 宗祖親鸞聖人七百五十回大遠忌 : 西本願寺本 / [親鸞著]
196.1/ K A K 親鸞聖人と承元の法難 / 梯實円, 瓜生津隆貞, 中西智海著 ; 芦屋仏教会館編	023/1362/4	【顯淨土眞實教行證文類】復刻 4 : 宗祖親鸞聖人七百五十回大遠忌 : 西本願寺本 / [親鸞著]
081/ K O N /106 大学教育における学習への動機づけ研究 : 甲南大学の教育効果を高めるための 1 つの試み	023/1362/5	【顯淨土眞實教行證文類】復刻 5 : 宗祖親鸞聖人七百五十回大遠忌 : 西本願寺本 / [親鸞著]
081/ K O N /108 高齢者の認知機能に及ぼす歩行運動効果の電気生理学的研究及びバイオメカニクスの研究 : 歩行時の加速度に着目して	023/1362/6	【顯淨土眞實教行證文類】復刻 6 : 宗祖親鸞聖人七百五十回大遠忌 : 西本願寺本 / [親鸞著]
081/ K O N /109 会社法理論とファイナンス理論の相互作用の国際比較	023/1362/B	【顯淨土眞實教行證文類】復刻 B : 宗祖親鸞聖人七百五十回大遠忌 : 西本願寺本 / [親鸞著]
103/ K E N /4 北米開教区 / 武田龍精編	081/ R Y U /27	選擇本願念佛集 (延喜) / [法然述] : 大田利生責任編集
699/ O C II アフリカの医療・障害・ジェンダー : ナイジェリア社会への新たな複眼的アプローチ / 落合雄彦, 金田知子編著	709.8/ K A N	特別展曼荼羅 : つどうほとけたち / 神奈川県立金沢文庫編集
422.035/TOK/16 唐研究 第 16 卷 / 榮新江主編	201.8/ K A N	描かれた寺社 : 中世の指図と明治の社寺明細帳図 / 神奈川県立金沢文庫編集
410.074/HAK/2007-4 平城京左京四条二坊九坪 (田村第跡) / 元興寺文化財研究所編	201.8/ K A N	称名寺の庭園と伽藍 / 神奈川県立金沢
410.074/HAK/2009-1 菽之本遺跡 / 元興寺文化財研究所編	201.8/ K A N	



	文庫編集	708/ CHU /14	岩畫版畫／張亞莎，邢軍主編
201.8/ K A N	五寸四方の文学世界：重要文化財「称名寺聖教」唱導資料目錄／神奈川県立金沢文庫編集	708/ CHU /15	年畫／邢振齡主編
		708/ CHU /16	畫像石畫像磚 1／信立祥主編
019.9/ K A N	徒然草をいろどる人々：企画展／神奈川県立金沢文庫編集	708/ CHU /17	畫像石畫像磚 2／信立祥主編
		708/ CHU /18	畫像石畫像磚 3／信立祥主編
375/ Y A S /1-1	靖国神社忠魂史 第 1 卷上／〔靖国神社社務所編纂〕	708/ CHU /19	書法 1／劉恒主編
		708/ CHU /20	書法 2／劉恒主編
375/ Y A S /1-2	靖国神社忠魂史 第 1 卷下／〔靖国神社社務所編纂〕	708/ CHU /21	書法 3／劉恒主編
		708/ CHU /22	篆刻／劉恒主編
375/ Y A S /2-1	靖国神社忠魂史 第 2 卷上／〔靖国神社社務所編纂〕	708/ CHU /23	石窟寺雕塑 1／李裕群主編
		708/ CHU /24	石窟寺雕塑 2／李裕群主編
375/ Y A S /2-2	靖国神社忠魂史 第 2 卷下／〔靖国神社社務所編纂〕	708/ CHU /25	石窟寺雕塑 3／李裕群主編
		708/ CHU /26	宗教雕塑 1／羅世平主編
375/ Y A S /3-1	靖国神社忠魂史 第 3 卷上／〔靖国神社社務所編纂〕	708/ CHU /27	宗教雕塑 2／羅世平主編
		708/ CHU /28	墓葬及其他雕塑 1／楊泓主編
375/ Y A S /3-2	靖国神社忠魂史 第 3 卷下／〔靖国神社社務所編纂〕	708/ CHU /29	墓葬及其他雕塑 2／楊泓主編
		708/ CHU /30	青銅器 1／孫華主編 1
375/ Y A S /4-1	靖国神社忠魂史 第 4 卷上／〔靖国神社社務所編纂〕	708/ CHU /31	青銅器 2／孫華主編 2
		708/ CHU /32	青銅器 3／孫華主編 3
375/ Y A S /4-2	靖国神社忠魂史 第 4 卷下／〔靖国神社社務所編纂〕	708/ CHU /33	青銅器 4／孫華主編 4
		708/ CHU /34	陶瓷器 1／李輝柄主編
375/ Y A S /5-1	靖国神社忠魂史 第 5 卷上／〔靖国神社社務所編纂〕	708/ CHU /35	陶瓷器 2／李輝柄主編
		708/ CHU /36	陶瓷器 3／李輝柄主編
375/ Y A S /5-2	靖国神社忠魂史 第 5 卷下／〔靖国神社社務所編纂〕	708/ CHU /37	陶瓷器 4／李輝柄主編
		708/ CHU /38	玉器 1／孫華主編
285.59/ S E N /1	戰前期仏教社会事業資料集成 第 1 卷：各宗派共同編 1	708/ CHU /39	玉器 2／孫華主編
		708/ CHU /40	玉器 3／孫華主編
285.59/ S E N /2	戰前期仏教社会事業資料集成 第 2 卷：各宗派共同編 2	708/ CHU /41	漆器家具 1／陳振裕，蔣迎春，胡德生主編
		708/ CHU /42	漆器家具 2／陳振裕，蔣迎春，胡德生主編
285.59/ S E N /3	戰前期仏教社会事業資料集成 第 3 卷：浄土真宗本願寺派編 1	708/ CHU /43	金銀器玻璃器 1／齊東方主編
285.59/ S E N /4	戰前期仏教社会事業資料集成 第 4 卷：浄土真宗本願寺派編 2	708/ CHU /44	金銀器玻璃器 2／齊東方主編
		708/ CHU /45	竹木骨牙角雕瑠璃器／李久芳主編
285.59/ S E N /5	戰前期仏教社会事業資料集成 第 5 卷：浄土真宗本願寺派編 3	708/ CHU /46	紡織品 1／趙豐主編
		708/ CHU /47	紡織品 2／趙豐主編
285.59/ S E N /6	戰前期仏教社会事業資料集成 第 6 卷：浄土真宗本願寺派編 4	708/ CHU /48	建築 1／王世仁主編
		708/ CHU /49	建築 2／王世仁主編
708/ CHU /1	中國美術全集 總目錄／金維諾總主編	708/ CHU /50	建築 3／王世仁主編
708/ CHU /2	卷軸畫 1／聶崇正主編	708/ CHU /51	建築 4／王世仁主編
708/ CHU /3	卷軸畫 2／聶崇正主編	728.8/ T E I /1	貞石之魂 第 1 冊：閑逸齋碑刻拓片藏珍／馬建國主編
708/ CHU /4	卷軸畫 3／聶崇正主編		
708/ CHU /5	卷軸畫 4／聶崇正主編	728.8/ T E I /2	貞石之魂 第 2 冊：閑逸齋碑刻拓片藏珍／馬建國主編
708/ CHU /6	卷軸畫 5／聶崇正主編		
708/ CHU /7	石窟寺壁畫 1／丁明夷主編	728.8/ T E I /3	貞石之魂 第 3 冊：閑逸齋碑刻拓片藏珍／馬建國主編
708/ CHU /8	石窟寺壁畫 2／丁明夷主編		
708/ CHU /9	石窟寺壁畫 3／丁明夷主編	728.8/ T E I /4	貞石之魂 第 4 冊：閑逸齋碑刻拓片藏珍／馬建國主編
708/ CHU /10	殿堂壁畫 1／金維諾主編		
708/ CHU /11	殿堂壁畫 2／金維諾主編	728.8/ T E I /5	貞石之魂 第 5 冊：閑逸齋碑刻拓片藏珍／馬建國主編
708/ CHU /12	墓室壁畫 1／羅世平主編		
708/ CHU /13	墓室壁畫 2／羅世平主編	728.8/ T E I /6	貞石之魂 第 6 冊：閑逸齋碑刻拓片藏珍／馬建國主編

	珍/馬建國主編		論研究所匯編
422.6/ TOK /1	东胡、乌桓、鲜卑研究集成 1 /孙海、 蔣新建主編	266/ M I N /8	民國密宗期刊文獻集成 第 8 卷/于瑞 華主編，中國人民大學佛教與宗教學理 論研究所匯編
422.6/ TOK /2	东胡、乌桓、鲜卑研究集成 2 /孙海、 蔣新建主編	266/ M I N /9	民國密宗期刊文獻集成 第 9 卷/于瑞 華主編，中國人民大學佛教與宗教學理 論研究所匯編
422.6/ TOK /3	东胡、乌桓、鲜卑研究集成 3 /孙海、 蔣新建主編		
422.6/ TOK /4	东胡、乌桓、鲜卑研究集成 4 /孙海、 蔣新建主編	266/ M I N /10	民國密宗期刊文獻集成 第 10 卷/于瑞 華主編，中國人民大學佛教與宗教學理 論研究所匯編
422.6/ TOK /5	东胡、乌桓、鲜卑研究集成 5 /孙海、 蔣新建主編	266/ M I N /11	民國密宗期刊文獻集成 第 11 卷/于瑞 華主編，中國人民大學佛教與宗教學理 論研究所匯編
422.6/ TOK /6	东胡、乌桓、鲜卑研究集成 6 /孙海、 蔣新建主編		
422.6/ TOK /7	东胡、乌桓、鲜卑研究集成 7 /孙海、 蔣新建主編	266/ M I N /12	民國密宗期刊文獻集成 第 12 卷/于瑞 華主編，中國人民大學佛教與宗教學理 論研究所匯編
422.6/ TOK /8	东胡、乌桓、鲜卑研究集成 8 /孙海、 蔣新建主編	266/ M I N /13	民國密宗期刊文獻集成 第 13 卷/于瑞 華主編，中國人民大學佛教與宗教學理 論研究所匯編
422.6/ TOK /9	东胡、乌桓、鲜卑研究集成 9 /孙海、 蔣新建主編		
422.6/ TOK /10	东胡、乌桓、鲜卑研究集成 10 /孙海、 蔣新建主編	266/ M I N /14	民國密宗期刊文獻集成 第 14 卷/于瑞 華主編，中國人民大學佛教與宗教學理 論研究所匯編
422.6/ TOK /11	东胡、乌桓、鲜卑研究集成 11 /孙海、 蔣新建主編	266/ M I N /15	民國密宗期刊文獻集成 第 15 卷/于瑞 華主編，中國人民大學佛教與宗教學理 論研究所匯編
422.6/ TOK /12	东胡、乌桓、鲜卑研究集成 12 /孙海、 蔣新建主編		
206.1/ CHU /1-1	云冈石窟雕刻卷 上卷/丁明夷主編	266/ M I N /16	民國密宗期刊文獻集成 第 16 卷/于瑞 華主編，中國人民大學佛教與宗教學理 論研究所匯編
206.1/ CHU /1-2	云冈石窟雕刻卷 下卷/丁明夷主編		
206.1/ CHU /2-1	寺观雕塑卷上卷/丁明夷主編		
206.1/ CHU /2-2	寺观雕塑卷下卷/丁明夷主編	266/ M I N /17	民國密宗期刊文獻集成 第 17 卷/于瑞 華主編，中國人民大學佛教與宗教學理 論研究所匯編
206.1/ CHU /3	馆藏雕塑卷 [セツ] /陈云岗主編		
206.1/ CHU /4	建筑雕刻卷 [セツ] /殷宛主編		
266/ M I N /1	民國密宗期刊文獻集成 第 1 卷/于瑞 華主編，中國人民大學佛教與宗教學理 論研究所匯編	266/ M I N /18	民國密宗期刊文獻集成 第 18 卷/于瑞 華主編，中國人民大學佛教與宗教學理 論研究所匯編
266/ M I N /2	民國密宗期刊文獻集成 第 2 卷/于瑞 華主編，中國人民大學佛教與宗教學理 論研究所匯編	266/ M I N /19	民國密宗期刊文獻集成 第 19 卷/于瑞 華主編，中國人民大學佛教與宗教學理 論研究所匯編
266/ M I N /3	民國密宗期刊文獻集成 第 3 卷/于瑞 華主編，中國人民大學佛教與宗教學理 論研究所匯編	266/ M I N /20	民國密宗期刊文獻集成 第 20 卷/于瑞 華主編，中國人民大學佛教與宗教學理 論研究所匯編
266/ M I N /4	民國密宗期刊文獻集成 第 4 卷/于瑞 華主編，中國人民大學佛教與宗教學理 論研究所匯編	266/ M I N /21	民國密宗期刊文獻集成 第 21 卷/于瑞 華主編，中國人民大學佛教與宗教學理 論研究所匯編
266/ M I N /5	民國密宗期刊文獻集成 第 5 卷/于瑞 華主編，中國人民大學佛教與宗教學理 論研究所匯編	266/ M I N /22	民國密宗期刊文獻集成 第 22 卷/于瑞 華主編，中國人民大學佛教與宗教學理 論研究所匯編
266/ M I N /6	民國密宗期刊文獻集成 第 6 卷/于瑞 華主編，中國人民大學佛教與宗教學理 論研究所匯編	266/ M I N /23	民國密宗期刊文獻集成 第 23 卷/于瑞 華主編，中國人民大學佛教與宗教學理 論研究所匯編
266/ M I N /7	民國密宗期刊文獻集成 第 7 卷/于瑞 華主編，中國人民大學佛教與宗教學理	266/ M I N /24	民國密宗期刊文獻集成 第 24 卷/于瑞 華主編，中國人民大學佛教與宗教學理

	論研究所匯編	052/532	中華佛學學報 18-19
266/ M I N /25	民國密宗期刊文獻集成 第 25 卷/于瑞華主編, 中國人民大學佛教與宗教學理論研究所匯編	052/532	中華佛學學報 20-22
		054/509	文物 2010 (1-6) [644-649] / 文物編輯委員會
266/ M I N /26	民國密宗期刊文獻集成 第 26 卷/于瑞華主編, 中國人民大學佛教與宗教學理論研究所匯編	054/509	文物 2010 (7-12) [650-655] / 文物編輯委員會
		050/1068	北京大學學報, 哲學社會科學版 2010 (1-3) [257-259]
266/ M I N /27	民國密宗期刊文獻集成 第 27 卷/于瑞華主編, 中國人民大學佛教與宗教學理論研究所匯編	050/1068	北京大學學報, 哲學社會科學版 2010 (4-6) [260-262]
053/376	日本大學精神文化研究所紀要 36-39	050/766	アジア文化研究所研究年報/東洋大學
050/1066	北海道武藏女子短期大學紀要 37-38 / 北海道武藏女子短期大學	050/766	アジア文化研究所 [編] 38-39
		050/1066	アジア文化研究所研究年報/東洋大學
		050/766	アジア文化研究所 [編] 40-41
058/774	The Arizona quarterly 62 (1-4)		アジア文化研究所研究年報/東洋大學
058/774	The Arizona quarterly 63 (1-4)	052/468	アジア文化研究所 [編] 42-43
058/774	The Arizona quarterly 64 (1-4)		日本仏教史學 24-26 / 日本仏教史學會 [編]
058/774	The Arizona quarterly 65 (1-4)	052/529	密教學會報 37-42 / 高野山大學密教學會
058/774	The Arizona quarterly 66 (1-4)		密教學會報 43-47 / 高野山大學密教學會
054/508	考古 2010 (1-6) [508-513]	052/529	密教學會報 37-42 / 高野山大學密教學會
054/508	考古 2010 (7-12) [514-519]		密教學會報 43-47 / 高野山大學密教學會
050/1061	新疆大學學報, 哲學・人文社會科學版 = Journal of Xinjiang University 38 (1-3) [147-149]	052/534	仏教學論集 24-27 / 立正大學大学院仏教學研究会
		050/334	橫濱市立大學論叢, 人文科學系列 61 (1-3) / 橫濱市立大學學術研究會編
050/1061	新疆大學學報, 哲學・人文社會科學版 = Journal of Xinjiang University 38 (4-6) [150-152]	052/398	佛教研究 33-35 / 國際佛教徒協會
		052/398	佛教研究 36-38 / 國際佛教徒協會
055/439	西域研究 = The Western regions studies 2010 (1-4) [77-80]	050/457	立正大學人文科學研究所年報 = Annual report of the Institute of Cultural Science, Risshō University
055/439	西域研究 = The Western regions studies 2011 (1-4) [81-84]		45-48 / 立正大學人文科學研究所
054/816	Cahiers d'Extrême-Asie 5-6 : revue de l'École française d'Extrême-Orient, Section de Kyôto / École française d'Extrême-Orient,	050/457B	立正大學人文科學研究所年報, 別冊 / 立正大學人文科學研究所 9-14
		051/53	龍谷教學 43-45 / 龍谷教學會議
		053/378	論集 31-33 / 印度學宗教學會 [編]
054/816	Cahiers d'Extrême-Asie 7-8 : revue de l'École française d'Extrême-Orient, Section de Kyôto / École française d'Extrême-Orient,	053/378	論集 34-36 / 印度學宗教學會 [編]
		053/380	平和と宗教: 庭野平和財團平和研究レポート 23-26 / 庭野平和財團平和研究会 [編]
054/816	Cahiers d'Extrême-Asie 9-10 : revue de l'École française d'Extrême-Orient, Section de Kyôto / École française d'Extrême-Orient,	057/115	研究紀要 48-53 / 京都市立芸術大學美術學部 [編]
		050/526	高田短期大學紀要 22-25 / 高田短期大學
054/816	Cahiers d'Extrême-Asie 14-15: revue de l'École française d'Extrême-Orient, Section de Kyôto / École française d'Extrême-Orient,	050/465	愛知學院大學文學部紀要 36-37 / 愛知學院大學文學會
		050/465	愛知學院大學文學部紀要 38-39 / 愛知學院大學文學會
054/813	East Asian history 24-28 / Australian National University, Institute of Advanced Studies	050/1072	研究紀要 22-26 / 豊橋創造大學短期大學部研究紀要編集委員會 [編]
		050/1096	研究年報 10-12 / 日本大學短期大學部

	(三島)	050/1076	夙川学院短期大学研究紀要 31-36 / 夙川学院短期大学紀要編輯委員会
050/623	相山女学園大学研究論集. 人文科学篇 37-40	053/383	創大アジア研究 21-23 / 創価大学アジア研究所 [編]
050/1073	筑紫女学園大学紀要 17	053/399	東洋大学中国哲學文學科紀要 11-14 / 東洋大学文学部中国哲学文学科
052/539	Upāya = ウパーヤ / 真言宗豊山派総合教化研究所 5-7	053/399	東洋大学中国哲學文學科紀要 15-18 / 東洋大学文学部中国哲学文学科
050/1097	人文社会学部紀要 1-4 / 富山国際大学 [編]	050/179	大正大學研究紀要. 人間學部・文學部 91-93 / 大正大學出版部 [編]
050/1097	国際教養学部紀要 1-4 / 富山国際大学 [編]	054/524	二松学舎大学東アジア学術総合研究所集刊 35-37 / 二松学舎大学東アジア学術総合研究所 [編]
050/1209	筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部紀要 1	054/524	二松学舎大学東アジア学術総合研究所集刊 38-40 / 二松学舎大学東アジア学術総合研究所 [編]
050/837	大谷大學研究年報 57-59 / 大谷学会	054/815	Asian research trends. New series 1-4
050/837	大谷大學研究年報 60-62 / 大谷学会	052/380	佛教文化研究所紀要 47-48 / 龍谷大学仏教文化研究所 [編集]
052/544	国際仏教学大学院大学研究紀要 7-9 / 国際仏教学大学院大学 [編]	052/549	佛教文化研究所紀要 47-48 / 龍谷大学仏教文化研究所 [編集]
052/544	国際仏教学大学院大学研究紀要 10-12 / 国際仏教学大学院大学 [編]	052/550	佛教文化研究所紀要 47-48 / 龍谷大学仏教文化研究所 [編集]
050/1063	専修人文論集 86-87 / 専修大学学会	052/535	駒澤大學禪研究所年報 21-22 / 駒澤大學禪研究所
050/1078	創価大学人文論集 19-21 / 創価大学人文学会	050/1196	政治科學季評 = Political science quarterly book review 1-12
058/286	同志社国文学 62-67 / 同志社大学国文学会	054/731	東洋の思想と宗教 25-28 / 早稲田大學東洋哲學會
052/545	普通寺教学振興会紀要 10-13 / 普通寺教学振興会 [編]	050/1076	夙川学院短期大学研究紀要 37-40 / 夙川学院短期大学紀要編輯委員会
052/536	教化研究 19-20 / 浄土宗総合研究所 [編集]	050/340	京都女子大学人文論叢 57-59
050/1079	総合文化研究所紀要 = Bulletin of Institute for Interdisciplinary Studies of Culture, Doshisha Women's College of Liberal Arts 21-23 / 同志社女子大学総合文化研究所	052/545	普通寺教学振興会紀要 14-16 / 普通寺教学振興会 [編]
050/1079	総合文化研究所紀要 = Bulletin of Institute for Interdisciplinary Studies of Culture, Doshisha Women's College of Liberal Arts 24-27 / 同志社女子大学総合文化研究所	051/125	宗學院論集 81-83 / 本願寺派宗學院
050/340	京都女子大学人文論叢 53-56	052/533	真言宗豊山派布教研究所所報 7-8 / 真言宗豊山派布教研究所 [編]
050/1076	夙川学院短期大学研究紀要 25-30 / 夙川学院短期大学紀要編輯委員会 25-30	058/286	同志社国文学 68-73 / 同志社大学国文学会

~~~~~  
RESEARCH INSTITUTE FOR BUDDHIST CULTURE  
Ryukoku University (RIBC)  
Kyoto, Japan December 2012.  
~~~~~